

東アジアにおける古代庭園国際シンポジウム

岩手大学平泉文化研究センターでは、東アジアにおける総合的「平泉学」の構築を図るための一環として、平泉文化セミナーや国際シンポジウムを定期的
に開催しております。

今回は、国際シンポジウムとして下記により開催しますので、ふるってご参加
ください。参加費は無料です。

考古学から見た豊京遺跡の集落形態について

—西周都城遺跡—

中国社会科学院考古研究所副研究員
豊鎬考古隊副隊長

付 仲楊氏

西周都城の豊京遺跡における 2011 年から 2016 年までの考古新発見
を中心に、豊京遺跡の集落形態及びその変遷と特徴について分析と総
括を行う。文王が豊京を造営した際、自然条件を十分に考慮しながら、
澧水と霊沼水の間には堀を開削することによって、豊京を四面に水でめ
ぐらす防御性を持つ都城となる。西周早期から中期までの遺構はこの
範囲に集中しているが、晩期に堀が廃棄され南へ拡張したと分かる。

平成 29 年 3 月 26 日(日) 13:30～16:30

岩手大学教育学部総合教育研究棟 2 階 E21 室